

# 滝の原便り

社会福祉法人西仁会 広報誌

〒320-0851 宇都宮市鶴田町3381

TEL 028-632-7577



## 在留資格「介護」

### 一 外国人材受け入れの背景

日本の介護分野は、世界でも類を見ない速さで進む高齢化により、深刻かつ恒常的な人手不足に直面しています。厚生労働省の推計では、2040年度には約69万人の介護職員が不足するとされており、このギャップを埋める上で、在留外国人材の存在は不可欠です。

現在、外国人介護人材は、経済連携協定(EPA)、技能実習制度、特定技能制度、そして在留資格「介護」といった複数のルートを通じて受け入れられています。このうち、2017年に新設された在留資格「介護」は、介護福祉士の国家資格を取得した者に与えられ、永続的な在留や家族の帯同が可能なキャリアパスとして、定着の要となっています。

### ○在留資格「介護」を持つ人々の現状

在留資格「介護」を持つ人材は、フィリピン、インドネシア、ベトナムなどのアジア諸国を中心に出身者が増え続けています。彼(女)らは、日本の介護現場における専門性の高い業務、特に認知症高齢者ケアや看取りといったデリケートな役割を担う即戦力です。この資格を持つ人材は、一定の日本語能力と専門知識を有しておらず、高いモチベーションを持って日本への介護の質の維持に貢献しています。

特定技能や技能実習から、この「介護」資格に移行することで、彼(女)らは日本で長期的なキャリアを築く

ことが可能となり、これにより介護現場の定着率向上にも寄与し始めています。彼(女)らが提供する異文化理解に基づいたケアは、利用者の多様なニーズに応える上でも貴重な財産です。

### ○定着と活躍を阻む課題

外国人介護人材が真に活躍するためには、いくつかの課題を克服する必要があります。

- ・日本語能力の壁.. 日常生活レベルの会話は可能でも、利用者やその家族との細かな感情の共有や専門的な申し送りにおいて、高度な日本語運用能力が求められます。特に認知症ケアでは、非言語的コミュニケーションだけではなく、相手の言葉の真意を読み解く能力が不可欠です。
- ・労働環境と賃金.. 日本人職員と一緒に、低賃金、重労働、そして夜勤を伴う不規則な勤務形態が離職の大きな要因となっています。また、出身国との文化や生活習慣の違いからくるストレスも、定着を難しくしています。

資格を取得した後、介護支援専門員(ケアマネジャー)などの上位資格への挑戦や、管理職への昇進といった具体的なキャリアパスの整備が、まだ不十分です。これにより、意欲ある人材の流出を防ぎきれていません。

### ○将来の展望と持続可能な制度構築

今後、日本の介護ニーズがさらに拡大する中で、外国人介護人材の受け入れは質・量ともに拡大していくことが確実です。この流れを持続可能なもの

にするためには、以下の施策が重要となります。

- ・質の高い日本語教育の徹底.. 介護現場に特化した実践的な日本語教育を、現地での事前学習から日本入国後のJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)まで一貫して強化する必要があります。
- ・公正な待遇と労働環境の改善.. 同人職員との賃金格差を解消するとともに、業務負担の軽減やメンタルヘルスサポートの充実が求められます。
- ・永住化と地域社会への包摵.. 在留資格「介護」は永住への道が開かれていますが、彼(女)らが日本で生活の基盤を安定させ、地域社会の一員として孤立せずに暮らせるよう、多文化共生の視点に立った支援(住宅、子育て、行政手続きのサポート)を強化することが不可欠です。

外国人介護人材は、もはや人手不足を補う「補充労働力」ではなく、日本の介護システムを支え、国際的な視点を取り入れるための「戦略的なパートナー」へと位置づけが変わりつつあります。彼(女)らが安心して働き、キャリアを形成できる環境を整えることが、日本の介護の未来を左右する鍵となります。

管理者

羽金 和彦



# ファミール滝の原



秋の演奏会が賑やかに行われました。  
昔懐かしの曲を口ずさみ、盛り上がり  
ました。

アンネ・プラスバンド 演奏会

10月22日



夏祭り 8月24日  
暑い季節の到来です。  
射的・輪投げ・金魚すくいに千本引き…。  
定番の夏を過ごしました。



散歩 9月  
秋晴れの良い日に近隣を散歩しました。  
爽やかな空気を胸いっぱいに吸い込んで  
リフレッシュです。



運動会 10月26日  
紅白に分かれ、熱い戦いの始まりです。  
手に汗握る接戦を制したのは、果たして…



## 通所リハビリテーション



～昼食です～  
敬老の日には、祝い膳。  
十五夜には、月見うどん。  
色どりも、盛り付けも  
とてもおいしそうでした。



～体操とレク～  
だんだん寒くなり動くのも億劫かもしません  
丸まっていたいけど、体操とレクで楽しく身体を  
動かしましょう。  
皆さんの好きな、輪投げで盛り上りました。



～午後の様子～

好きなように過ごすみんなの過ごし方  
脳トレや色塗り、おしゃべり、なんでも楽しいです。  
楽しみを忘れないでください。



～手作業～  
ゆつくりペースで壁飾りを制作しています。  
今回近隣の小学校の文化祭での作品展への展示  
となり、菊の壁飾りの制作をしました。  
編み物が得意な利用者さんの作品も展示します。  
心を一つにして素敵な作品が出来上がりりました。



# 滝の原苑



《敬老祝賀会》 9月15日（月）  
昼食の祝い膳（お赤飯・天ぷら盛り合わせ・焼き合わせ・紅白なます・茶碗蒸し・果物）です。午後には、職員による『米』をテーマにした時代劇をお披露目。皆様とても喜んで下さり大盛況でした。来年はどんな演目になるか楽しみです。おやつには、施設からのお祝いとして、有名なお店のどら焼きと抹茶カステラをセットにして、職員がひとつひとつ心を込めてラッピングしました。甘く



《夏祭り》 8月27日（水）  
午前は、くじ引き・風船ゲーム・的投げの三種類のゲームをして、昼食にはお祭りメニュー（たこ焼き・やきそば・やきとり串・ミニフランクフルト・チキンナゲット・フレイドポテト・冷やしトマトの砂糖かけ・きゅうりの浅漬け・すいか）を召し上がっていただきました。午後にはお神輿が登場し施設内を活気づけ、盛り上りりました。



《十五夜昼食会とお茶会》 10月6日（月）  
お月さまをイメージした円を中心としたメニューをご用意しました。メニューは（さつまいもごはん、きのこごはん、鮭わかめごはんの十五夜おにぎり三種盛り・さんまおろし煮・枝豆とひじきの白和え・果物・ミニ月見そば）です。午後のおやつはデザート盛り合わせ（うさぎケーキ・月見アイス）です。当日の夜は天候が悪く、お月さまを見ることが出来ませんでしたが、秋の味覚とかわいいおやつで季節を感じて頂けたかと思います



# ケアハウス滝の原苑



10月6日十五夜 旬の食材のお団子  
と皆様。  
おなかいっぱい召し上がりました。



誕生会 これは敬老月の誕生会のひとコマ。  
カラオケ名人の利用者の熱唱が響きました



敬老日、誕生会  
そして、十五夜。  
9月15日敬老の日 施設長より高齢者を敬い、尊ぶ話を賜り、真剣な眼差しで聞き入っていた後、豪華な敬老膳に舌鼓。みなさん美味しい顔をされていました。

## 「存知ですか「日本原産のフルーツについて」

日本には四季があり、まちのスーパーにはその季節ごとに色とりどりの果物が並んでいます。代表的なものだけでも、リンゴ、ミカン、バナナ、イチゴ、メロン、スイカ、ブドウ、ナシ、キウイなど、さまざまなものがあります。これらの多くは明治時代以降に日本に入ってきたものですが、日本原産のもの、すなわち、日本で生まれて、世界に広まついた果物はあるのでしょうか。ウンシュウミカン（温州蜜柑）、ワナシ（和梨）、スモモ（李）などは日本原産といえるものですが、その筆頭は、今が旬の「カキ（柿）」でしょうか。

カキ（柿）の原産地は中国の揚子江沿岸が有力な説とされていますが、日本を含む東アジアとする説もあります。日本では縄文や弥生時代の遺跡から柿の種が出土しており、柿は古くから存在していたことが分かります。現在のような大きな柿の品種は、奈良時代に中国から伝わってきたと考えられます。柿が一般的に食べられるようになるのはこの時代からだとも言われています。しかし、柿が生まれて何万何千年もの間、この世に存在する柿はすべて渋柿でした。食べるためには、干し柿や熟柿（熟するまで自然放置）にすることが必要でした。

そうした中、鎌倉時代前期の日本（川崎市麻生区王善寺の山中）で、樹上に甘く熟した世界初の甘柿「禪寺丸（ゼンジマル）」が発見されます。発見場所の地名（王禪寺）や果実の形状（丸形）から、当初は「王禪寺丸柿」と呼ばれ、当地を中心近くにも栽培が広がっていきました。禪寺丸柿は17世紀半ばから江戸への出荷が始まり、昭和40年頃まで関東や名古屋地域の市場への出荷は続いたのです。

この甘柿は16世紀後半、日本からポルトガル人（南蛮貿易）を通じてヨーロッパに伝わり、19世紀には北米、南米にも広まっていきます。そうした中、スウェーデンの植物学者カル・ツンベルクが日本から母国に帰国後に刊行した「日本植物誌（1784年）」の中で、「柿」に「Diospyros kaki (ティオスピロス・カキ)」の学名をつけました。「神の果実（たべもの）」という意味ですが、あまりの美味さ故なのでしょうか。それとも寺や神社で柿が多く見られたことからでしょうか。いずれにしましてもツュンベリーさんのお陰で「kaki(カキ)・柿」は今や全世界に通じる言葉となつたのです。

## 編集雑記

暑く長い夏も終わり、やっと本格的な秋がきたようです。最早9月は秋ではありません。立派な夏です。宇都宮での、ここ3年（令和5・6・7年）の9月の日平均気温は夏本番の7月の平年値を、0.3～0.9℃上回っているのです。これは7月より9月の方が暑くなっていることを意味しますが、夏が長く、その分、秋は短くなっていると言えるかも知れません。

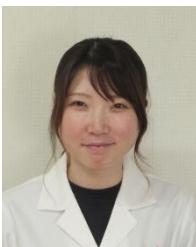
夏の暑さとは直接関わりはないのでしょうか。クマ（熊）の出没が止まりません。今年4月～8月で1万6千件を超えて、統計史上、最多のベースです。犠牲者数も過去最多2023年度の6人を、10月に更新し、けが人を含めた人身被害の件数も過去最悪ペースで推移しています。この夏はクマにとってエサが少なく、街に現れて人を襲うケースが多発しました。秋は冬眠に備えて大量の食料を摂る時期ですが、ブナやミズナラなどの堅果類の結実が栃木県は良好との発表がありました。東北など地域によっては厳しい状況が聞こえます。心配ですね。9月から日常生活圏での銃器使用の要件が緩和されましたが、人はクマの生息環境悪化に加担してきたのですから、クマが人里に出てこなくとも暮らしていく環境をとり戻す取り組みにも力を注いでほしいですね。

10月6日、7日と、二人の日本人研究者がノーベル賞受賞という快挙が伝えられました。生理学・医学賞に大阪大学特任教授の坂口志文氏、化学賞に京都大学特別教授の北川進氏が選ばされました。同時にダブルの受賞は2015年以来の10年ぶりです。この二人の受賞で、日本のノーベル賞受賞者は30人と1团体となり、米国、英国、ドイツ、フランスに次いで世界第5位です。誇らしいですね。しかし、日本の基礎研究力はここ30年で大幅な低下が指摘されており、「日本人のノーベル賞受賞は遠ざかるのでは」と懸念されています。今回受賞の両氏も「基礎研究の重視と研究環境の支援」を求めていますが、さて、日本初の女性総理高市早苗氏率いる新政権は、この問題にどう対応するのでしょうか。

158か国・地域が参加した大阪・関西万博が、10月13日閉幕しました。半年の会期で、来場者は2500万人を超え、最大280億円の黒字の見通しのようです。

しかし、この数字は会場運営に限った収支（収入・チケット・グッズ販売等／支出・スタッフ人件費・光熱水費等）で、会場建設費や、本来含むべき会場警備費（約255億円、国が負担）などは收支計算の対象外です。最終的な收支報告は万博協会が解散する2028年3月に公表されるようですが、もつと早く全体を示すことはできないのでしょうか。

さて、2年後の2027年3月には横浜市郊外部（瀬谷・旭区）で、最上位（Aクラス）の花博（国際園芸博覧会）が開催されます。1990年大阪花の万博以来37年ぶり国内2回目の開催となります。比較的近くでの開催ですので、ぜひ行ってみたいですね。



管理栄養士

新入職員紹介  
特養 滝の原苑

